

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	奈良県	事業実施主体	十津川村	地域再生計画名	人と自然の共生を目指す森林づくり計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	十津川村建設課長 鎌塚康史		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度	年度	中間実績	基準年度					
地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	災害時孤立集落	1箇所	H26	1箇所	H29	1箇所	0箇所	H31		道路狭隘箇所の拡幅が完了し災害時孤立の恐れについては解消するが、舗装と一部法面工事が完了しない見込みである。
	指標 2	村道危険箇所	5箇所	H26	2箇所	H29	3箇所	0箇所	H31		危険箇所2箇所については対策工事が完了したが、残る1箇所については平成31年度工事完了見込み、残る2箇所については若干工事計画範囲に達成しない可能性がある。
	指標 3	村内全体の原木生産量	6,500 m3/年	H26	7,500 m3/年	H29	20,000 m3/年	8,500 m3/年	H31	○	村の重点施策として取り組んでおり、目標を大きく上回った。最終目標値についても現況程度に上回る見込みである。
	指標 4	保全対策推進率	78%	H26	95%	H29	97%	100%	H31	○	インフラ点検計画の見直しにより中間目標値は上回ったが、最終目標値は下回りH31年度以降に点検を行う見込みである。
地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	観光入込客数の増	754,459人	H26	782,000人	H29	743,039人	800,000人	H31		各種観光PRは行っているが、観光シーズンにおける自然災害等により中間目標値を下回った。
	指標 2	十津川材を活用した年間建築工事件数	60件	H26	66件	H29	63件	70件	H31		積極的なPR活動や独自の補助金制度により、目標に近い数値を達成している。
事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価					
			計画	中間年度（H29）	最終実績見込み						
特別措置を適用して行う事業	村道整備事業（整備延長）		0.09km	0.09km	0.09km	集落の孤立解消は図られたが、当該箇所から連絡する林道は観光や林業の振興に大きく寄与しており、橋梁保全等の整備を引き続き行う必要がある。					
	林道整備事業（整備延長）		3.03km	1.74km	3.03km	今回の整備により森林施業地および観光地へのアクセスが改善され原木生産量の増となった。村においても道路インフラの老朽化が深刻となっているので引き続き事業を実施したい。					
その他の事業	観光振興事業		広域観光圏PR事業の実施			関西国際空港を利用するインバウンドをターゲットに大阪府泉南市・和歌山県田辺市と連携し、紀伊半島を周遊し世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」と温泉を体験するPR事業を毎年行っている。今後は結果を分析するとともに、インバウンドの受け入れ態勢を強化したい。					
	道路改良事業		生活や産業の基盤となる村道整備の実施			災害時の迂回路機能を有する村道改良の実施、および道路未整備地区における村道開設により住民生活の利便性が向上されているとともに、産業振興に結び付くことが期待される。					
計画外で独自に実施した事業	十津川村公園事業		大阪市におけるイベント実施			天王寺公園において十津川産材を使った遊具を設置し、都市部の親子で木のぬくもりを体験することにより、十津川の林業PRにつながったと考えている。					
	足湯事業		県内における出張足湯実施			県内におけるイベント会場において、村の温泉を利用した出張足湯を行い源泉かけ流しの温泉をPRしたことにより、誘客につながったと考えている。					
評価方法	地域再生計画に記載した数値目標に関係する部署および関係団体代表により、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。										
中間評価の公表方法	十津川村のホームページに掲載										
計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した村道と林道整備を一体的に実施し、併せて林業再生にかかる村独自の取り組みにより、原木生産や林業従事者数など林業振興にかかる効果を発現できると考えている。観光事業については、国に於いてはインバウンドが増加するなか、様々な要因が重なり村の観光入込客数が伸び悩んでいることから、新たな手法による観光情報発信を行い観光交流人口の増加を図らなければならない。										
今後の方針等	本地域再生計画は、ハード事業の成果を数値目標に挙げていることから、予算措置が事業の進捗を大きく左右している。このため、個別の指標について一部目標数値を下回る可能性があるが、計画全体の目標である林業振興や観光客誘致促進を達成するため、ソフト面での対策を一層強化していきたいと考えている。										